

# しいのき



## 大不況と文化遺産

名誉館長 三 隅 治 雄

昭和4年に起きた世界大恐慌から、今年はちょうど70年目になります。いま、ふたたび起こっているこの不況は、この先どのような転変をしていくのか誰も予測がつきません。経済状態の不安が一方でありながら、新聞では文化面が読者層にとって重要な紙面となり、TVではバラエティー・旅・料理番組が人気を博し、映画を上映すれば観客動員数は記録を更新し、各地の展覧会は常に活況を呈しています。これらのことは、私たちの不安の裏返しともいえませんが、今、最も人々が求めている心のオアシスかもしれません。私どもの資料館も決して、財政的に豊かとはいえませんが、その責務は重要と考えています。このたび、資料館庭園の江戸時代の茶室・書院を保護するために覆い屋をかけました。建物に覆い屋をかける保護方法は、中尊寺の金色堂や野口英世の生家などに見られますが、私たちの構想はいずれは覆い屋をはずし庭園全体を対象とした文化ゾーンをつくることにあります。実現はすぐにはいきませんが、その前に、この春から、この茶室・書院を皆様に見学していただく機会を設ける所存でございますので、今年度も私ども歴史民俗資料館を応援いただければと思っております。

## 文化財よもやま話

犬と玩具

郷土玩具の中には、犬のモチーフが多くみられます。代表的なものとしては「犬張り子」や「笹かぶり犬」をあげることができますし、神社で授与されているものでは、例えば岡山県吉備津神社の土製の狛犬があげられます。

犬に関する記事は『日本書紀』に早くも記されています。犬は古来より人と生活を共にした動物でありました。「三日飼えば三年恩を忘れない」とは、猫と比して犬の主人思いを語っている諺であり、犬の律儀な性質は一般によく知られているところです。犬が暮らしの中で大変身近な動物であったことは今も昔も変わりがないようです。

犬を型どった玩具の誕生は、犬の身近さに加え、お産が軽いことから、安産の守り、ひいては幼児を守り悪魔を除ける力があると信じられてきたことによります。犬張り子は江戸時代後期頃から作られるようになりました。嫁入道具の一つともなり、雛飾りとしても飾られていましたし、男児は誕生31日目、女児は誕生33日目の宮参りに、でんでん太鼓を背負ったそれを親類から贈られる風習もありました。また、東京の下町では、小さい犬張り子に笹を被せたものを「笹かぶり犬」といい、これを幼児の寝ている天井に吊るしておくで幼児の鼻がつまらないとか、荒神さまに供えておくで子供の百日咳が治るとかいわれていました。



◀犬張り子



笹かぶり犬▶

## 大地に眠る歴史

発掘調査はどうか（その6）

遺物の実測図の作成が終了すると、それを報告書として印刷するため、トレース作業に入ります。

トレース作業とは、原図に透けて見える用紙（トレーシングペーパー）を乗せて、図を写しとることです。印刷物では鉛筆書きの原稿では鮮明に印刷することができませんので、黒いインクで仕上げなければなりません。昔は、丸ペンやカブラペン・烏口などでなぞっていましたが、現在では線の太さが一定にできるロットリングペンという製図道具を用います（写真下）。



この作業が終了しても、まだ印刷屋にこれを出すわけにはいきません。トレース図がページの中でどの位置に印刷するかを決めなくてはならないのです。これは、実際に印刷される大きさ（版面）の2倍ほどの台紙に一枚一枚貼り込んで図版というものを作って、それを渡すわけです（写真下）。



写真についても同じように、印刷してほしい大きさと配置を示すため、現像された実物を台紙に貼ってこれを図版とします。

このようにして、図と写真の準備ができますと本文の原稿を執筆し、一冊の報告書が出来上がり、一つの発掘調査が完全に終了するわけです。

6回にわたって連載しました「発掘調査はどうか」は今回で終了です。（おわり）

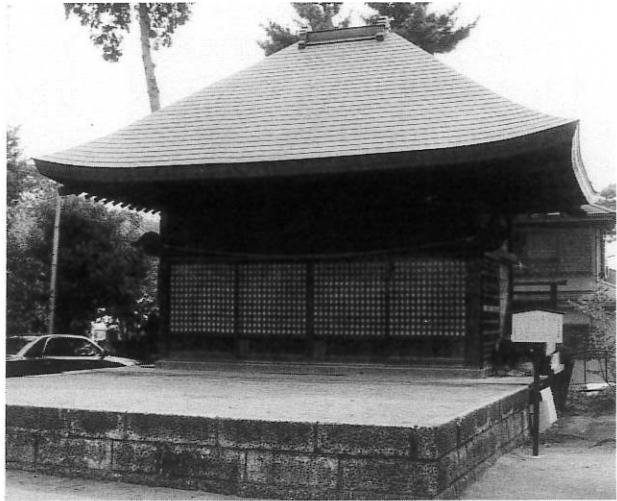
## 平成10年度中野区指定文化財

平成10年度中野区文化財は、建造物・考古遺物を中心に、つぎの7件を指定しました。

### 神楽殿（江古田氷川神社）

江古田3-13-6

弘化4年（1847）に建立され、屋根の勾配や全体のバランスは美しく、区内に残されている数少ない江戸時代の建造物です。桁行3間（5.5m）、梁間2間（3.6m）、屋根は寄棟造りで、正面は四枚立ての引違い戸が入っていますが、創建時は摺り上げ戸でした。内部は板張り床で、格子天井です。この格子天井には色彩豊かな花鳥画が描かれています。絵師が山崎家の茶室・書院に逗留して、ここから通って花鳥画を仕上げたということです。江古田獅子舞いはこの神楽殿の前で奉納され、建造物としてばかりでなく、郷土の民俗芸能と一体となった景観を保持している点でも、価値の高いものです。

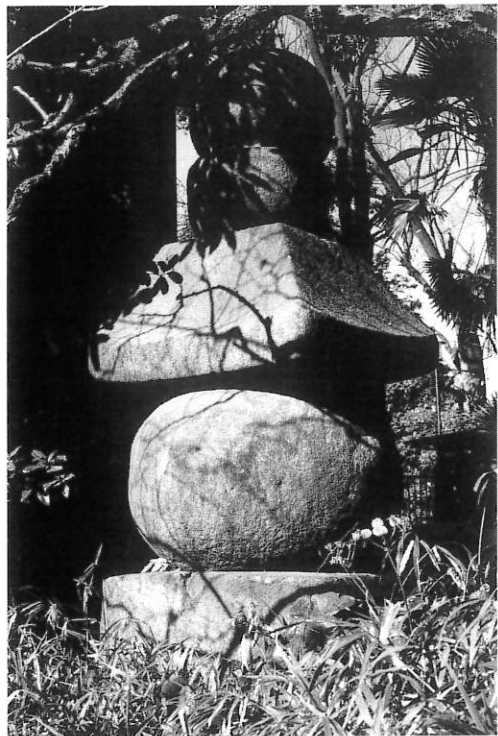


### 五輪塔（宝仙寺）

中央2-33-3

五輪塔の五輪とは、仏教でいわれている空・風・火・水・地といった宇宙を形成する五つの元素を示すものです。

宝仙寺の五輪塔は、高さ2.71mで、鎌倉や箱根の類例を除くと関東でも最大級に属す、大変珍しいものです。一番上の空・風輪は一石からなり、その下の火・水・地輪は各々独立して彫成されています。軒はやや内側に倒斜していて、薄目で関東地方に多く見られるものです。全体のバランスから見て、様式的には鎌倉時代後期から室町時代初期のものと推定されます。規模の点では資料の少ない中世の中野を解明する上でも重要なものです。



### 縄文土器（勝坂式・加曽利E式）5点

資料館収蔵品

練馬区豊玉北二丁目中新井弁天遺跡で出土した資料で、江原に在住していたアマチュア考古学者・郷土史家でもある故堀野良之助氏の収集資料で、氏は武蔵野台地を中心とした膨大な考古資料を収集しました。これら5点の土器は、縄文土器の編年を確立した、故山内清男博士によって縄文時代中期の勝坂式・加曽利E式土器の標識の一つとされたものです。右上の土器は、全体に縄文を施文した後、器の上半分に、太い沈線で幾何学的な文様を施す勝坂式の典型的な深鉢（主に煮るための形）です。その下の二つの土器は、縦方向の櫛目をまんべんなく施した後に、細い沈線で横線と連続する弧を描くいわゆる連弧文土器と呼ばれる加曽利E式の深鉢です。

下の土器は、縦方向の櫛目文だけを施した加曽利E式の深鉢です。その下の土器は、加曽利E式の浅鉢（盛る器）であり文様を施さないシンプルなデザインが特徴です。



### 縄文土器（興津式）

資料館収蔵品

江原二丁目寺山窪泥炭遺跡で出土した資料です。

縄文時代前期末に利根川流域に分布した興津式と呼ばれる土器です。櫛状の工具で横方向の文様を施すのがこの型式の大きな特徴です。茨城県の土器が東京都である中野区で発見されたことは大変珍しいことで、今から約5000年前の地域間の交流の広さを示す重要な資料です。



### 弥生土器（高坏）たかづき

資料館収蔵品

練馬区春日町遺跡で出土した資料で、故堀野良之助氏が所蔵していたものです。

関東地方における弥生時代後期の典型的な高坏（盛る器）です。脚部は欠損していますが、複合口縁の縄文も丹念に施文されており、坏部分の外側と内側には磨きがていねいに施されています。全体のバランスもよく、優れた製品です。

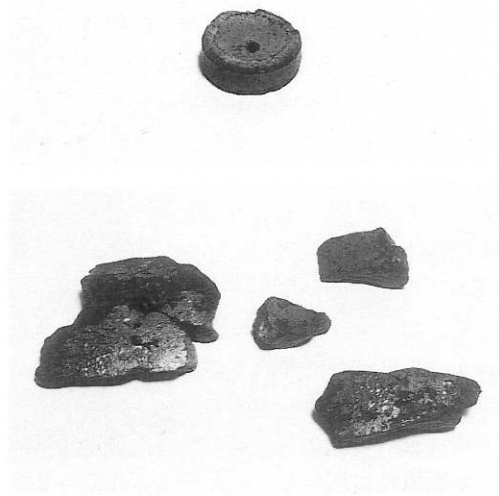
また、弥生時代研究の確立者である故杉原荘介博士によって、久ヶ原式の高坏の標識とされた土器です。



### 縄文時代の漆塗り木製品

資料館収蔵品

江古田三丁目の北江古田遺跡で出土した、縄文時代後期（約3,500年前）の漆塗りの木製品で、耳飾り1点と碗の破片が発見されています。これらの製品は科学的観察によって5回の漆の重ね塗りが施されていたことが明らかにされています。現代と同等の高度な工芸技術が駆使されている点は、縄文時代の文化を考える上で貴重な資料といえます。





### 北江古田遺跡土坑一括資料

資料館収蔵品

北江古田遺跡31号土坑の中からまとめて出土した資料です。深鉢1点、浅鉢2点がありますが、上の浅鉢は、全体に赤漆が塗られており、口縁部に植物繊維で編まれたタガがめぐるされています。このような例は大変珍しく、漆という当時の最高技術が用いられていることと、タガをしめるということから日常以外の特別な用いられ方をしていることが予測されています。その下の浅鉢は口縁部の下部分に、やはり赤漆によってジグザグ（鋸齒文）の文様が描かれており、これも特殊な用途が考えられるものです。

これらのことから、この一括土器は、当時の祭祀儀礼に用いたものと考えられています。



# 古文書つづり

使った後も 考えて

世はおしなべて不況です。バブル景気の後にくた平成大不況はいっこうに終息せず、社会のもつ構造的な問題がいよいよ深刻に取上げられています。どちらを向いても文字通り景気の悪い話ばかりのなか、好調なのは金融業と人材派遣業くらいなものでしょうか。

江戸時代の金融業といえは質屋を思い浮かべますが、その他に互助的なものとして「頼母子」と呼ばれる講サークルがありました。これは講の構成員が一定額を持寄って集まり、抽選でその金品全部の取得者を決めるもの。全員が当選するまで抽選会を繰返すために結局は誰も損をしません。ただ、まとまった金品をいつかは得られる反面、当選者が一巡するまで決った額を支払い続ける経済力が不可欠で、やむにやまれず土地を手放すことになる場合も多かったそうです。

江戸時代  
頼母子講  
の  
文書  
の  
一部  
を  
写  
し  
て  
お  
示  
し  
ま  
す  
。  
左  
の  
文  
書  
は  
、  
年  
貢  
の  
不  
足  
分  
を  
頼  
母  
子  
の  
掛  
金  
と  
し  
て  
充  
て  
た  
の  
で  
後  
の  
処  
置  
を  
依  
頼  
す  
る  
、  
と  
い  
う  
も  
の  
で  
す  
。  
税  
金  
と  
互  
助  
会  
の  
掛  
金  
を  
同  
じ  
次  
元  
で  
扱  
っ  
て  
い  
る  
点  
が  
現  
在  
か  
ら  
は  
少  
々  
奇  
妙  
に  
み  
え  
ま  
す  
が  
、  
そ  
の  
あ  
た  
り  
に  
時  
代  
の  
違  
い  
と  
社  
会  
の  
隔  
絶  
を  
感  
じ  
ま  
す  
。  
そ  
ん  
な  
に  
苦  
勞  
す  
る  
な  
ら  
講  
を  
辞  
め  
れ  
ば  
い  
い  
の  
に  
と  
い  
う  
意  
見  
は  
も  
っ  
と  
も  
で  
す  
が  
、  
構  
成  
員  
で  
あ  
る  
こ  
と  
は  
社  
会  
的  
地  
位  
の  
一  
つ  
の  
象  
徴  
で  
し  
た  
し  
、  
一  
度  
講  
を  
ぬ  
け  
る  
と  
そ  
れ  
以  
外  
の  
扶  
助  
や  
協  
力  
も  
受  
け  
ら  
れ  
な  
く  
な  
る  
と  
い  
う  
不  
利  
益  
が  
あ  
っ  
た  
た  
め  
、  
普  
通  
は  
脱  
退  
を  
考  
え  
ず  
最  
後  
の  
最  
後  
ま  
で  
構  
成  
員  
に  
留  
ま  
っ  
た  
よ  
う  
で  
す  
。  
昔  
も  
今  
も  
「  
借  
り  
と  
き  
は  
計  
画  
的  
に  
」  
で  
す  
ね  
。

区内にも頼母子関係の史料があります。今回あげた文書の大意は、年貢の不足分を頼母子の掛金として充てたので後の処置を依頼する、というものです。税金と互助会の掛金を同じ次元で扱っている点が現在からは少々奇妙にみえますが、そのあたりに時代の違いと社会の隔絶を感じます。そんなに苦勞するなら講を辞めればいいのにといい意見はもっともですが、構成員であることは社会的地位の一つの象徴でしたし、一度講をぬけるとそれ以外の扶助や協力も受けられなくなるという不利益があったため、普通は脱退を考えず最後の最後まで構成員に留まったようです。

昔も今も「借りるときは計画的に」ですね。

## 中野往来

### 水野十郎左衛門成之の墓

上高田4-14-1 萬昌院功運寺墓域内

萬昌院功運寺に河竹黙阿弥の作品『極付幡随長兵衛』通称「湯殿の長兵衛」という歌舞伎で有名な水野十郎左衛門の墓があります。墓石の正面に「寂窓院殿一閑宗心居士」、右側に「寛文四申辰年三月廿七日」、左側に「俗名水野重郎左衛門尉」と刻まれています。

十郎左衛門は、父が備後福山藩主水野勝成（徳川家康の従父弟にあたる）の三男、母が阿波藩主蜂須賀至鎮の娘という名門の出身で、名は初め貞義、後成之といました。慶安3（1650）年12月11日、旗本三千石の水野家を継ぎ、同4年8月8日、初めて將軍家綱に拝謁しました。しかし、病と称して、出仕を怠りながら、江戸市中では、旗本奴「大小神祇組」の統領として名を馳せていました。「旗本奴」とは、反社会的で、異様な恰好をし、市中を横行する無頼化した旗本・御家人の集団の

ことで、同様の集団で町人が作っていた「町奴」とともに「かぶき者」と呼ばれていました。

両者の間には抗争が絶えず、その代表ともいえるのが、十郎左衛門が町奴幡随院長兵衛と争いの末殺害するという事件でした。旗本奴と町奴の頭領同士争いだったことから江戸の人々の関心を集め、歌舞伎や人形浄瑠璃の題材などに取り上げられるほどでした。この件では、無礼をはたらいた町人に対する切捨御免として罪に問われませんでした。

しかし、その後も無法は止むことがなく、ついには評定所に呼び出されることになります。この時十郎左衛門は、髪を結わず、袴もつけないで出座し、諸役人を驚かせました。これが不敬とされ、即日、松平（蜂須賀）阿波守光隆に身柄を預けられ、翌日寛文4（1664）年3月27日に切腹、お家は断絶となりました。そして二歳の息子百助もその罪に連座して罪せられ、母と弟又八郎忠丘は光隆にお預けの身となりました。

後に忠丘は許され、忠丘を始めそれ以降の水野家の人々も代々萬昌院功運寺に葬られています。

# 事業報告

## 各種事業経過

1999年1月～3月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「冬季所蔵名品展—浮世絵の競演」 「第10回 おひなさま展」	1/6～3/31 2/11～3/7
体 験 講 座	「拓本講座」 講師：当館主任学芸員・専門研究員	3/6・7
文化財調査	中野駅周辺地区民俗調査	継続中
埋蔵文化財調査	沼袋一丁目民有地立ち合い調査 中野三丁目民有地立ち合い調査 江原二丁目民有地立ち合い調査 弥生町三丁目民有地立ち合い調査 江原二丁目民有地確認調査	2/12 2/24 2/25 2/27 2/27
刊 行 物	江古田遺跡発掘調査報告書刊行 新井・上高田地区民俗調査報告書刊行	3/31 3/31

## 寄贈資料一覧

1998年12月～1999年2月  
敬称略・受入順

資料名	点数	氏 名
慰問袋・蓄音機	4	原 久雄
戦闘機模型	17	北村 保夫

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。



第10回おひなさま展も盛況でした。



冬季所蔵名品展「浮世絵の競演」

## 入館状況

1998年12月～1999年2月（延70日間） (人)

一 般	社教団体	学校教育	合 計
7,007	135	1,245	8,387

発行年月日 1999年4月1日

編集・発行  **山崎記念  
中野区立歴史民俗資料館**

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 10中教社第12号)